



LIBRARY

いわき総合高校図書委員会 平成30年夏休み号



今月のオススメ📖

◀ **アナログ** ▶ 著者：ビートたけし

水島悟は仕事でのプレゼンテーションもパソコンを使わずに、模型を使う“アナログ”な男だ。そんなアナログな男が、ある日ひとりの女性に恋心を抱くようになる。しかし、悟は言う「携帯とかメールなんて知らない方がいい」と。そして、デジタルなものを一切使わない恋が始まった。

映画監督としてビートたけしさんを知っている人は多いと思います。そんなビートたけしさんが本を書いていたことは知っていましたか？ たけしさんのこれまでの小説は、本人も言っていますが、大まかなストーリーは自分で考え、あとはゴーストライターに任せただけなのです。しかし、この『アナログ』はゴーストライターの手を借りずに書いたオリジナル小説になっています。SNSやインターネットが普及する、今を生きるみなさんにぜひ読んで欲しい一冊になっています。(SK)



話題の本😊

◀ **かがみの孤城** ▶ 著者：辻村 深月 **2018年 本屋大賞第1位！ 50万部突破**

中学校へ入学したばかりの安西こころは、ある出来事をきっかけに学校へ行けなくなってしまう。どこにも行けず閉じこもっていたある日、こころの部屋の鏡が、突然、光り始める。輝く鏡をくぐり抜けた先には、不思議な城があった。そこにいたのは、こころと同じく学校へ行けない6人の中学生。城を仕切っているのはオオカミのお面をつけた少女、自称「オオカミさま」。オオカミさまは、彼らにこう告げる。城の中には、なんでも願いが叶う「願いの鍵」がある。それを見つけ出せば、何か一つ願いは叶うのだ、と。鍵はいったいどこにあるのか？

話が進むにつれて、こころを含むそれぞれ7人の事情が分かってきます。どうして学校へ行けなくなったのか？ そして、“オオカミさま”の正体とは？ 張り巡らされた伏線が、最後の「エピローグ」ですべて明らかになる。ネタバレになるので詳しい説明はできませんが、読み終えたあとに温かな気持ちに包まれること、請け合いですよ。



余談

『かがみの孤城』は、本屋大賞過去15回のうち最大数を獲得して“大賞”に選ばれたそうです。「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本 2017」でも第1位を獲得しています。高校生に読んで欲しい一冊なのですね。デビュー当時から10代を描くことに定評のあった辻村さんですが、『かがみの孤城』は、満を持して発表した自信作だそうです。読み終えて、偶然ではないと思われることを発見しました。それは、辻村さんが自他ともに認める大のドラえもんファンであること、と閏年の2月29日生まれということです。この2点がなければ、『かがみの孤城』の着想に変化があったと思われます。まあ、個人的な意見ですが……。みなさんも読んでみれば、謎が解けますよ。

先生のオススメ

太田 隆明 教頭先生

◀ 世界美術大全集 ▶ 著者：高階 秀爾他

西洋編28巻、東洋編17巻、計45巻から成る世界美術大全集である。B4判の大画面で、図書室奥の書棚の最下段を占領している。

掲載画像数は2万点を超え、見ごたえ横綱級。

☆生徒へひと言☆

本校の蔵書の中でも最も高額なシリーズである。ケース裏の価格表示は 20,000 円/冊

(現在は 28,000 円!)。生徒諸君には、45冊全部でいくらになるか計算する前に、是非図書館で手に取って見てほしい。

西洋編は第1巻「先史美術と中南米美術」から28巻「キュビズムと抽象美術」、東洋編は第1巻「先史・殷・周」から17巻「イスラーム」まで……。さあ、どの巻から見ようか。

例えば、西洋第20巻「ロマン主義」。ページを開くとドラマチックな絵画が次々に目に飛び込んでくる。図版No.38ドラクロワ作の「民衆を導く自由の女神」は見開きの大画面。タイトルの女神の美しさもさることながら、私は画面左下に描かれた、倒れている男性が履いている「靴下」が気になります。



教頭先生の気になる靴下はここです!

2018年度 課題図書

高等学校の部

☐ いのちは贈りもの：ホロコーストを生きのびて

著：フランシーヌ・クリストフ 河野 万里子 訳

<内容> 第二次世界大戦中、6歳でナチスのホロコーストを体験したフランス人女性の手記。アンネ・フランクと同じ収容所に移送された少女の見た風景が、人間のあり方を問う話題作。

☐ わたしがいどんだ戦い 1939年

著：キンバリー・ブルバイカー・ブラッドリー 大作 道子 訳

<内容> 1939年、2度目の世界大戦さなかのロンドン。足の悪い少女エイダは母から疎まれていた。懸命に歩く練習をする。歩けさえすれば、弟と一緒に疎開できる。自分らしく生きるために戦うエイダ。2016年ニューベリー賞次点作。シュナイダー・ファミリーブック賞受賞。

☐ 車いす犬ラッキー：捨てられた命と生きる 著者：小林 照幸

<内容> 鹿児島県・徳之島で車いすの犬「ラッキー」の介護をしながら暮らす一人の初老の男性を主人公に、伝統や自然、人間模様を織り交ぜながら、犬と人の心あたたまる交流を描く。大宅賞作家の書き下ろしノンフィクション。

夏休み期間中

本の貸出し数は無制限です!

夏休み中は何冊でも借りられますよ。

*返却は始業日 8月27日(金)

みんな図書館へ借りに来てね♪

